

表26 応神の年次表の解説(外交史を含む)

2009/10/08 改訂
2009/08/18 by marishi

A系列			B系列	備考
記載値		加算年 年代差	復元値 (+120年)	
西暦	年次			
201 269	神功1 神功41	162 111	363 380	363年、応神誕生1歳、神功皇后32歳 380年、応神18歳、神功皇后100歳
270 271 272 274 275 276 277 278 280 282	1庚寅 2辛卯 3壬辰 5甲午 6乙未 7丙申 8丁酉 9戊戌 11庚子 13壬寅	111 111 111 110 110 110 110 110 109 108	381 382 383 384 385 386 387 388 389 390	381年、応神即位元年、応神19歳 仲姫を皇后とする。(382年、神功紀、新羅朝貢せず、討つ。) 392 辰斯王没、阿華王王位に就く。 官船を造る。(384年、神功紀、百濟貴須王没、枕流王位に就く) 近江国へ御幸。(385年、神功紀、百濟枕流王没、辰斯王位に就く) 高麗人、百濟人、新羅人来朝 397 百濟人(直支=典支王子)来朝[百濟紀] 武内宿禰諫言される 剣池、軽池を造る 髪長姫
283 284	14癸卯 15甲辰	108 108	391 392	百濟王縫衣工女奉る。百濟弓月君来歸 百濟王阿直岐を遣わす
285 285	16乙巳 同上	108	393	405 阿華王没、直支王位に就く[百濟本紀]→仁徳 百濟より王仁来日
288 289 290 291 294	19戊申 20己酉 21庚戌 22辛亥 25甲寅	106 106 106 106 104	394 395 396 397 398	吉野宮に御幸 409 阿知使主来日→+120の場合、仁徳在位に入る 難波に行幸、大隈宮 414/420 久爾辛王(+120/414、百濟本紀+126/420)→仁徳
297 300	28丁巳 31	102 99?	399 400	高麗の使者朝貢、菟道稚郎子太子怒る 官船朽ちる
306 308	37丙寅 39戊辰	94? 93	401? 401	426 阿知使主を呉に遣わす(425年、呉へ朝貢)→仁徳 428 百濟比有王、妹新齊都媛を遣わす→仁徳または履中
309 309	40己巳 同上	93	402	大山守命、大鷦鷯尊に質問 菟道稚郎子太子とする
310 310	41庚午 同上	93	403	403年、応神崩御 427 阿知使主歸る(+120/430→427)←仁徳崩御427年
311 312		93 92	404 404	空位 空位
313 ~ 399	仁徳1 仁徳87	92 28	405 427	405年、仁徳即位 427年、仁徳崩御

注1) 阿知使主に関する記事は次の二通りが考えられる。

- ①国内記事の場合の加算年を用いると、阿知使主来日393年、呉への朝貢401年、呉からの帰還403年となる。
- ②120年の加算年を用いると、阿知使主来日409年、呉への朝貢426年、呉からの帰還427年となる。
- ③国内記事とする場合と加算年120年とする場合の両方とも413年の呉への朝貢とは一致しない。しかし、加算年120年の場合は、425年の朝貢と1年違いで、ほぼ一致する。

注2) 辰斯王: 385~392、阿華王: 392~405、直支王(典支王): 405~420?、久爾辛王: 420~427、比有王: 427~455

注3) 百濟本紀428年に倭国の使者が来た、との記載がある。